

コミュニティレベルの幸福度を考える： ブータンの事例から

教育実践者（日本大学三島高等学校・中学校 非常勤講師）

杉野 正美

千葉大学大学院社会科学院特任研究員

田代 佑妃*

要旨 2009年にブータン王国（以下「ブータン」）を訪問し執筆された「豊かさの経済を求めて：ブータン王国に思うこと」（青木ら、2009）から8年、ブータンの「国民総幸福量（Gross National Happiness, GNH）」は、どのように変化したのか、Modernization（近代化）の影響は人々の暮らしにどういった影響をもたらし、どのように対応しているのか。その後を調査すべく2017年8月8日～8月11日までブータンを訪問・滞在した。インターネットやテレビなどの普及により（近代化の影響）消費主義の傾向が都市部（とりわけ若者の間）では見受けられるようになってはいるが、ブータン政府はGNHの概念を元に、国としての対応策を練り問題解決すべく取り組んでいる。何年経とうとも、仏教の教えが彼らの生活の根本にあるのは変わらないのであろう。だが、今後10年・20年経ち、世代交代の波が押し寄せても、GNHの4つの柱のバランスは現代のように保たれていくのか、それとも、物質主義による経済発展にのみ取られんしていくのか、今後のブータンとその人々を取り巻く環境を注視していく必要があろう。

第1節 はじめに

2017年8月8日から11日まで南アジアのブータン王国（以下「ブータン」）を訪問し、同国が世界に独立国として名を示すことの発端となったとも言える「国民総幸福（Gross National Happiness, GNH）」が、青木ら（2009）の調査以降、どのように変化したのか？ 近代化をはじめとする、外部からの影響を受ける中、ブータンの人々は今もなお“幸せ”¹⁾なのか、近代化や消費主義の影

* 筆者らの行った現地調査では、Gross National Happiness Commission (GNHC) や国際協力機構 (Japan International Cooperation Agency: JICA) の職員の皆さまを始め、首都ティンブー市内の私立小学校の校長・副校長先生や現地ガイド・ドライバーなど様々な方々にお世話となった。貴重なお時間を割いて、私どもの調査にお付き合いくださったそれらの皆様に深く感謝したい。

響を人々はどのように捉えているのか、につき首都ティンブー及びパロを中心に調査を行った。本稿は、この調査に基づいて「社会レベルの幸福度」およびブータンの近隣諸国との地域的な「関係性」について論じるものである。構成は以下の通りである。第2節においては、ブータンの現状について、基礎的な経済指標をもとに経済状況を、GNH指標をもとに国民の幸福度について考察する。第3節では、ブータンが抱えるGNHと近代化の狭間で生じている社会問題：文化の継承と保護（民族衣装・ゾンカの課題）・環境問題・福祉面の課題、に焦点を置き、これらの課題とその対応策について論じる。第4節においては、ソシオン理論を紹介し、ブータンと隣国の関係性や、ブータンの人々・ブータンという国を形作る重要な価値観について、外部者としての考察を述べ、最後に、小括と展望で締めくくる。

第2節 経済状況とGNH指標でみるブータンの現状

2-1. ブータンの経済状況概観

初めに、2007年以降、ブータンの経済状況がどのように推移してきたのか、統計数字を示しておく。表1に2008年から2015年におけるブータンの主要経済指標を示す。一般的な経済指標であるGDPを用いた際、2008年当時のブータンの一人当たりGDPは日本円換算（名目値）で20万円程であったが、2015年では、30万円程になったことが見て取れる（表1）。2008年から比較した場合、名目GDPは約141.2%の成長率を誇るが、GDPを指標として豊かさを捉えた場合、今もなおブータンは経済的に「豊かな国」であるとは言いきれない²。

また、2007年当時、財・サービスの輸出入額がともにGDP総額の50%を超える水準であったが（青木ら、2009）、2008年～2015年のデータを見てみると、輸出額は、GDP総額の約50%から約32%へと減少の傾向が見られる。一

¹ 「幸福」論に関する既存研究としては、例えば、キャロル グラハム（2013）、橘木（2013）、暉峻（1989）などがある。ブータンの幸福に関しては、高野（2016）、中尾（2011）、本林・高橋（2013）などがある。

² Drexler（2014）内にも、現実として存在するブータンの貧しさや、発展が遅れていることを認める現地の方の言葉の記述がある。

表1 ブータンの主要経済指標

(単位：百万ニュルタム)

	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
名目GDP	54,744.29	61,220.56	72,496.64	84,950.01	97,452.96	105,378.35	119,545.75	132,021.30
財・サービス収支 (輸出額-輸入額)	-5,019.40	-10,715.53	-20,501.25	-24,874.52	-23,693.89	-22,988.64	-25,168.39	-35,762.45
財・サービスの輸出額	26,709.70	27,366.50	30,777.02	35,003.69	37,739.40	42,636.41	43,377	43,414.41
財・サービスの輸入額	31,729.18	38,082.06	51,278.27	59,878.21	61,433.29	65,625.05	68,545.15	79,176.86
総消費額	36,269.04	43,935.54	48,265.73	52,354.98	54,966.02	79,934.41	82,900.68	96,496.79
うち公的消費	10,372.57	13,082.07	14,487.85	17,047.84	18,691.15	18,274.46	20,194.04	23,465.55
うち民間消費	25,896.47	30,853.47	33,777.89	35,307.14	36,274.88	61,659.96	62,706.64	73,031.24
総資本形成	23,494.70	28,000.55	44,732.16	57,469.55	66,139.99	48,432.57	61,813.47	71,286.96
経常移転収支	2,440.40	3,916.23	5,281.46	8,492.70	8,888.11	7,738.31	6,609.10	5,917.00

注：1 ニュルタム＝約 1.71 円 (2017年6月現在)

出所：National Statistics Bureau Royal Government of Bhutan National Accounts Statistics 2016 (<http://www.nsb.gov.bt/publication/files/pub1rt4291ni.pdf>) p.28, Table 1. p.38, Table 11 に基づいて作成。

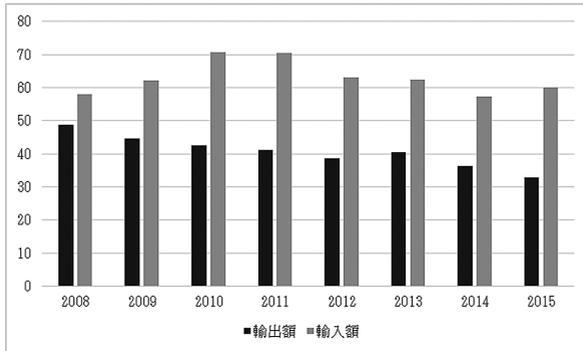
方、輸入額においては、ばらつきはあるものの、60%～70%の割合を推移しており、外国からの輸入に大きく頼った経済活動になっていることが分かる（グラフ1）。国際協力における援助の受取額などを示す経常移転収支は、2000年当時から変わらず黒字となっており、ブータン経済と海外からの援助が切り離せないものであることを示している。

表2に、ブータンの生産面から見たGDPの構成を示す。2008年から2015年にかけて最も成長してきた分野は、ビジネスサービス業（成長率約564.8%）、ホテル・レストラン業（約336.7%）、次いで卸売り・小売業（約279.8%）である。2000年から2007年にかけて約435.6%と急成長をみせていた電気・水道業に至っては、2008年以降約63.9%の成長率となっていることから、ブータンにおいて、電気・水道といった経済成長に欠かせないインフラが整いつあることが読みとれる。

実際にブータンに足を運び、現地の状況を見てみると、道端で見かける犬や牛といった動物は、日本の動物と比較すると痩せている印象を受けるものの（写真1）、青木ら（2009）が8年前に感じたように、食べ物が豊富にあるとい

グラフ 1 GDP に対する輸出入額の割合の推移

(単位：%)



出所：National Statistics Bureau Royal Government of Bhutan National Accounts Statistics 2016 (<http://www.nsb.gov.bt/publication/files/pub1rt4291ni.pdf>) p.38, Table 11 に基づいて作成。

表 2. ブータンの生産面から見た GDP 構成 (名目ベース) (ここに表 2 を挿入)

(単位：百万ニュルタム)

産業部門	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2015年の対2008年成長率
1. 農業、畜産・林業	10,078.28	11,158.67	12,177.83	13,868.37	15,558.29	16,969.71	20,050.39	22,007.59	118.4
1.1 農業	5,060.59	5,668.24	6,530.14	7,065.37	8,365.21	9,404.66	12,029.02	13,340.02	163.6
1.2 畜産	2,624.54	2,894.92	3,109.68	3,473.20	3,996.79	4,537.22	4,869.27	5,236.88	99.5
1.3 林業	2,393.15	2,595.51	2,538.01	2,729.79	2,926.29	3,027.84	3,152.09	3,450.69	43.4
2. 鉱業	1,251.99	1,392.03	1,616.89	1,941.73	1,961.96	2,793.69	3,376.43	4,484.27	258.2
3. 製造業	4,593.44	5,017.23	6,324.15	7,044.82	8,623.12	8,778.67	9,705.14	10,543.50	129.5
4. 電気・水道	11,552.22	11,813.45	12,763.60	11,911.61	12,303.14	15,230.29	16,917.83	18,933.12	63.9
5. 建設	6,250.98	7,469.68	10,308.86	13,916.57	17,669.80	17,826.07	18,479.70	20,612.96	229.8
6. 卸売・小売	2,694.65	2,935.27	3,752.55	4,641.79	5,917.59	6,823.31	8,472	10,233.35	279.8
7. ホテル・レストラン	569.15	537.61	608.01	948.65	1,298.83	1,616.37	2,045.91	2,485.70	336.7
8. 輸送・備蓄およびコミュニケーション	5,365.77	5,989.87	6,934.32	8,526.11	9,256.04	9,806.81	11,508.69	11,883.73	121.5
9. 金融・保険・不動産およびビジネスサービス	4,576.55	4,962.11	5,545.89	7,007.73	7,412.13	8,064.75	9,048.88	9,827.57	114.7
9.1 金融・保険	3,174.35	3,466.21	3,987.66	5,136.84	5,384.96	5,781.09	6,461.22	6,901.34	117.4
9.2 不動産	1,374.00	1,460.30	1,507.70	1,815.30	1,947.27	2,198.01	2,489.76	2,738.74	99.3
9.3 ビジネスサービス	28.2	35.6	50.53	55.59	79.9	85.66	97.89	187.48	564.8
10. 行政	3,762.71	4,728.37	5,517.28	6,478.03	6,775.74	6,981.50	8,079.11	9,103.73	141.9
11. 教育・保険	2,167.71	3,234.96	3,745.21	4,404.22	4,473.23	4,555.00	4,874.55	5,672.73	161.7
12. 文化およびレクリエーションサービス	267.73	276.42	297.97	338.03	390.05	436.86	471.81	503.7	88.1
13. 税金・マイナスイタ補助金	1,613.12	1,704.90	2,895.07	3,922.37	5,813.03	5,495.31	6,515.65	5,729.34	255.2
GDP合計	54,744.29	61,220.56	72,496.64	84,950.01	97,452.96	105,378.35	119,545.75	132,021.30	

出所：National Statistics Bureau Royal Government of Bhutan National Accounts Statistics 2016 (<http://www.nsb.gov.bt/publication/files/pub1rt4291ni.pdf>) p.29, Table 2 より。

写真1 道端で草を食べる牛



写真2 一面に広がる棚田風景



う印象は変わらなかった³。一面に広がる田園風景や(写真2)、町から町への移動中に見られた道端で農産物を売る人々の姿は今も尚健在で、減少傾向にあるとは言うが、国民の大半が農業に従事している状況に大きな変化はないようである。

2-2. GNH 指標 (GNH Index) にみるブータンの豊かさ (幸福度)

次に、GNH 指標を用いて、ブータンの豊かさ (幸福度) を示す。GNH は 4 つの柱 (社会経済的発展・環境保護・文化の保護と促進・良き統治) から成り、

³ 滞在中の食事に関しても、肉類の料理は少ないながらも、複数の野菜料理と山盛りのご飯が提供され、野菜などの豊富さを実感した。

GNH 指標は、9つの分野（Living Standard：生活水準、Ecological Diversity：自然環境の多様性と復元力、Community Vitality：地域活力、Good Governance：良い統治、Cultural Diversity：文化の多様性、Education：教育、Time Use：時間の使い方、Health：健康、Psychological Wellbeing：心理的幸福感）で構成され、更に33の指標と129の変数に基づいて算出される⁴。

2005年の国勢調査において国民の97%が「幸せ」と答えたという結果があり、「世界一幸福な国」という肩書が一人歩きしているような風潮もあるが、2015年に行われた調査結果によると、GNH指数は0.743（2010年）から0.756（2015年）と1.8%の向上となっている⁵。2005年の調査結果には劣るものの、国民の91.2%が幸せだと答え、その内、43.4%が「きわめて（deeply）幸福」もしくは、「とても（extensively）幸福」と回答していることから、国内の幸福度について大きな変動はないようである⁶（表3）。一方、世界的に見てみると、ブータンの幸福度は、79位（2010～2012年）から97位へ（2014-2016年）とランクを下げており、世界的に使われている指標とブータン国内のGNH Indexは必ずしも比例するものではないと言える。

続いてGNH指標への9つの分野の貢献割合を2010年と2015年で比較したものをグラフ2に表す。Living Standard, Ecological Diversity, Education, Time Use, Healthと言った分野で向上が見られるが、その内、Living Standard, Education and Healthと言った分野での向上は、GNHの4つの柱の1つである社会経済的発展の効果の現れとも取れる。一方で、Good Governance, Cultural Diversity, Psychological Wellbeingの低下は、近代化に伴い、海外からの情報に晒され続けてきたことで、国民一人一人の選択肢や知識が増え、政府への疑念を持つものや、文化の多様性維持よりも、新しいもの・便利なものへと流れる傾向が現れてきているとも解釈できる。

⁴ GNHの4つの柱やGNH指標に関しては、賀戸・田中（2016）、山下・高見沢（2016）、Drexler（2014）などがある。

⁵ Centre for Bhutan Studies & GNH Research（2015）より。

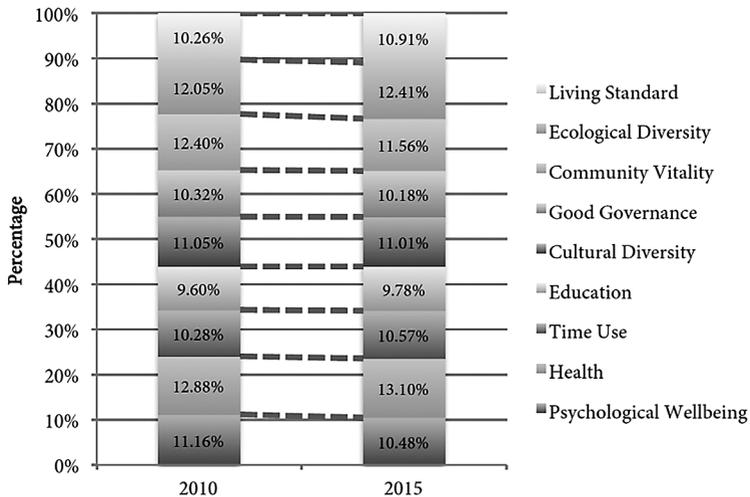
⁶ Sustainable Development Solutions Network（2015）より。

表3 2010年・2015年に行われた国民の幸福感に関する結果

	GNH-2010			GNH-2015	
	Definition of group~ Sufficiency in:	Percentage of population who are:	Average sufficiency of each person across domains	Percentage of population who are:	Average sufficiency of each person across domains
Deeply Happy	77%-100%	8.3%	81.5%	8.4%	80.9%
Extensively Happy	66%-76%	32.6%	70.7%	35.0%	70.8%
Narrowly Happy	50%-65%	48.7%	59.1%	47.9%	59.1%
Unhappy	0-49%	10.4%	44.7%	8.8%	45.2%

引用元：Centre for Bhutan Studies & GNH Research, *A COMPASS TOWARDS A JUST AND HARMONIOUS SOCIETY 2015 GNH Survey Report* (<http://www.grossnationalhappiness.com/wp-content/uploads/2017/01/Final-GNH-Report-jp-21.3.17-ilovepdf-compressed.pdf>) p.59. Table 7.

グラフ2 GNH 指標に貢献する9つの分野の割合



引用元：Centre for Bhutan Studies & GNH Research, *A COMPASS TOWARDS A JUST AND HARMONIOUS SOCIETY 2015 GNH Survey Report* (<http://www.grossnationalhappiness.com/wp-content/uploads/2017/01/Final-GNH-Report-jp-21.3.17-ilovepdf-compressed.pdf>) p.61. Figure 3.

次に職業別に幸福度（豊かさ）を見てみると、国民の大半を占める農業・農家の幸福度が1番低いという結果が出ている（**グラフ3**）。農業・農家の幸福度の低さに連動するように、地方では農業離れも広がっており⁷、こういった背景を元に、政府やJICAでは、特に農業に携わる人たちの幸福度向上を目指して活動を行っている。実際に農林業省とJICA共同で行われた“The Horticulture Research and Development Project”（HRDP-JICA）に参加した農家は、参加していない農家よりも幸福度が上がるという調査結果も出ている（Phuntsho, 2017）⁸。

「GNHはあくまで概念であり、スローガンである」（白石、2012）と言った厳しい指摘もあるが、国民の幸福度を調査し、GNH指標を出すことで、課題に対する具体的な対策を練ることができることも忘れてはならない。現在抱える課題に対し、対策を練り実行に移していくこと、それがブータン流の幸せの追求の在り方ではなかろうか⁹。

第3節 GNH4つの柱に関わるブータンの抱える課題

3-1. 文化と伝統の保護と海外からの影響

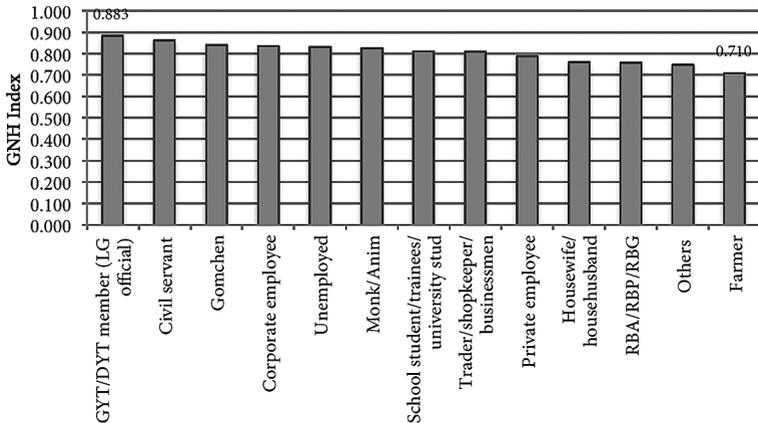
1980年代に「国民文化形成」が進められ、ブータンでは公の場（学校・公共施設・僧院など）において民族衣装（男性用は「ゴ」（Gho）、女性用は「キラ」（Kira））を着用することが義務付けられている（青木ら、2009）。本林・高橋（2013）によると、彼らが渡航中に出会ったブータンの人々の中には、民族衣

⁷ 農業離れや農家の幸福度の低さの要因としては、多発する野生動物による被害（野生動物から作物を守るために、日中夜間わずの見張りが必要なうえ、作った作物の約3割は野生動物に食べられてしまうと言う）・地形の問題による機械化の難しさ・都市化による農地の減少など様々であるが、農業を生業とする人々にとってのストレスは多大なものと思われる。

⁸ JICAの協力・支援以外にも、電気柵を設置することで野生動物の被害を最小限にする動きもあると言う。

⁹ GNHC事務次官によると、政府の在り方・国の在り方として根本にあるのは「to maximize the happiness level of people in Bhutan」であり、そのために仕事・健康・教育・電気・道路などの環境を整えるのが政府の役割だと言う。

グラフ3 職業別によるGNH指標



引用元：Centre for Bhutan Studies & GNH Research, *A COMPASS TOWARDS A JUST AND HARMONIOUS SOCIETY 2015 GNH Survey Report* (<http://www.grossnationalhappiness.com/wp-content/uploads/2017/01/Final-GNH-Report-jp-21.3.17-ilovepdf-compressed.pdf>) p.73. Figure 15.

写真3 民族衣装の制服着用子ども達 (首都ティンポーにて)



装着用の義務について不満を述べる人は居なかったという。しかし、今回お世話になったガイドの方に民族衣装着用義務について、率直な意見を求めたところ「袖などが汚れやすいため、面倒だと感じる」と言っていた。その一方「着慣れているし、当たり前のこと」と言う意見もあり、民族衣装着用義務を受け入れつつも、様々な捉え方が生まれてきていることもまた、事実である¹⁰。

特に若者間では、K-pop が流行しており、民族衣装着用義務のない場所や週末などになると、ミニスカートを穿き、奇抜なファッションをする姿が見受けられるようになってきているという。インターネットなどの普及による海外からの影響が今後、文化や伝統にどのような変化を与えていくのか引き続き注視が必要である。

3-2. 英語教育の普及とゾンカに対する意識

英語教育の普及によって国語（公用語）であるゾンカを苦手とする子どもが増加していると言われているが（青木ら、2009）、その根底には様々な要因が存在している。まず初めに、ゾンカはサンスクリット語を起源としているため、読み・書きにおいて、英語より難しいとされる。次いで、ブータン国内には元々約 20 もの言語があり、共通言語確立の必要性によってゾンカが選ばれたものの、公用語として整備途上¹¹であるがゆえに、「政府が頻繁に言葉を変えてしまい、子供たちが混乱してしまっている。」¹²ことが挙げられる。言語本来の難しさに加えて、ゾンカが公用語として発展途上の段階であることが、ゾンカ離れの一因となっていることに危惧を感じる。

ゾンカ離れを防止するため行われている対策について、Gross National Happiness Commission (GNHC) の事務次官や、首都ティンブー市内の私立小学校・Sunshine Private School の校長・副校長らに話を聞く機会を得た¹³。事務次官が具体的な対策として挙げていたのは、国や学校レベルで、ゾンカでの歌のコンテストやコンサートを開催することである。また、今回訪問した

¹⁰ 旅の途中、T シャツとハーフパンツ姿でドライバーの方が洗車をする姿に彼らの「合理性」が伺えた。

¹¹ インターネット情報 (<http://bhutan-npo.asia/index.php/ja/officiallanguagesinjapanese>) より

¹² Sunshine Private School 副校長の個人的見解による。

¹³ 同事務次官とは 2017 年 8 月 8 日に王宮において、同校長・副校長とは 2017 年 8 月 9 日に Sunshine Private School にて直接面談し意見交換する機会を持つことができた。Sunshine Private School のモットーが“Small is Beautiful”であり、Schumacher (2010) のタイトルと同じだったことも印象深かった。

写真4 学校に持ってくるおやつについての掲示物
(ティンパー市内・Sunshine Private School 内にて)



Sunshine Private School では、朝礼の際に、ゾンカと英語でのスピーチが生徒によって行われ、英語偏重にならない努力も見受けられた。しかし、掲示物などはほとんどが英語表記になっている現状(写真4)やゾンカ以外の教科は英語で教えられていることを考慮すると、教育環境において、英語優勢の状況は今後も続いて行くであろう。

3-3. 環境問題(ごみ処理・分別)

青木ら(2009)や石戸(2016)が危惧していた、ポイ捨てやゴミ分別への意識不足、土に還らないゴミ埋め立て地増加と言った問題は、8年経った今も大きな課題であり、適切な解決策が見出せず行き詰まっていると言う。JICA 職員の方によると、ゴミの分別は Wet(生ごみ)か Dry(その他)の2つのみであり、日本のような細かな分別システムも整備されず、人々のポイ捨てへの意識改革にも時間を要すると言う。また、リサイクル施設を作ろうにも、人口が少ないため現実的ではなく、今出来ることを少しずつやっていくことが最善策になっていると言う¹⁴。その一つとして、JICA 職員の方々は、週に一回、マラソン後に、ゴミ拾いすることを習慣化していると言う。また、ブータン国内でも、waste inspector を任命し、ティンパー市内の違法ゴミ投棄の取り締まりを

¹⁴ 同職員の方とは JICA ブータン事務所において、2017年8月8日に直接面談し意見交換することが出来た。

写真5 分別もされず、ゴミ箱から溢れかえるゴミ（パロにて）



開始するなど、ゴミ問題に関する対策が取り出されている¹⁵。

人々のポイ捨てへの意識改革には時間を要すると先に述べたが、ガイドの方が移動の途中に連れてきてくれた、観光客向けのいわゆる「写真スポット」においても入りきれないゴミが散乱している状況が多々あり（写真5）、ゴミの分別や処理の課題は、ブータンの人々の意識だけではなく、観光客のゴミ捨てに関する意識にも要因があるように感じたのは深読みのし過ぎであろうか。

3-4. 福祉関連

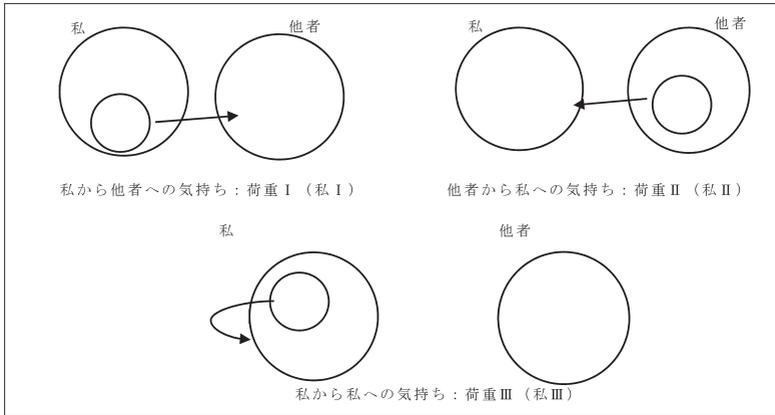
福祉の視点において、ブータンの遅れを青木ら（2009年）は指摘していたが、この印象は2017年も変わらず、歩道・道路共に未舗装の場所・段差が多くお年寄りや体に障がいを持つ者にとっては生活しにくいように感じた¹⁶。その一方、少しずつではあるが、改善の兆しも見えており、ブータン国内において初となる障がい者を考慮した歩道がティンブプー市内へ続く高速道路沿いに建築中で、2017年9月には完成予定だという¹⁷。これをきっかけに、ごみ捨て・ごみ

¹⁵ The Bhutanese (<http://thebhutanese.bt/>) THROMDE APPOINTS WASTE INSPECTORS (2017年7月15日) より。

¹⁶ 日本においてもベビーカーや車いすでの移動は苦勞が多いが、それを上回る状況だと感じる。

¹⁷ The Bhutanese (<http://thebhutanese.bt/>) *FIRST EVER DISABLE FRIENDLY FOOTPATH ALONG THIMPHU EXPRESSWAY BY SEPTEMBER* (2017年7月22日) より。

図1 3つの私 (荷重Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)



出所：小杉考司・藤澤隆史・渡邊太・清水裕士・石盛真徳（2006）、pp.20-21.

処理の問題のように「少しずつできることを」と言った動きが福祉の分野においても広がっていくことを願うばかりである。

第4節 ソシオン理論でみるブータンと隣国、ブータン国内の関係性

4-1. ソシオン理論とは

本節においては、ブータンと隣国、およびブータン国内の「関係性」につき考察する。その際に社会学分野で提起されている「ソシオン理論」を援用したい。ソシオン理論とは、人間関係（人と人との結びつきやふるまい）や社会全体をネットワークとして捉えようという前提の理論であり、人は3つの私（荷重Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）から成り立つとし、私から他者への気持ちのことを荷重Ⅰ・他者から私への気持ちのことを荷重Ⅱ・私から私への気持ちのことを荷重Ⅲと呼び、図1のように表示する（藤澤、1997・小杉ら、2006）。

荷重とは、人と人を結ぶつながりであり、その強さを表す言葉である。荷重が大きいほどその関係は重要であることを示し、正と負の向きをもち（荷重価）、「少し好き」や「とても嫌い」といった大きさをもつ（荷重量）（小杉ら、2006）。この論稿では、荷重価を表す際に、矢印の始点は評価をする主体を、終

図2 私はアナタのことが大好きだけど、アナタは私のことが嫌い。アナタは自分のことが嫌いだけど、私は私のことが好き。という状況を表したもの。

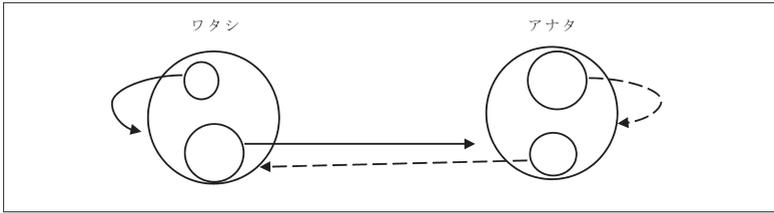
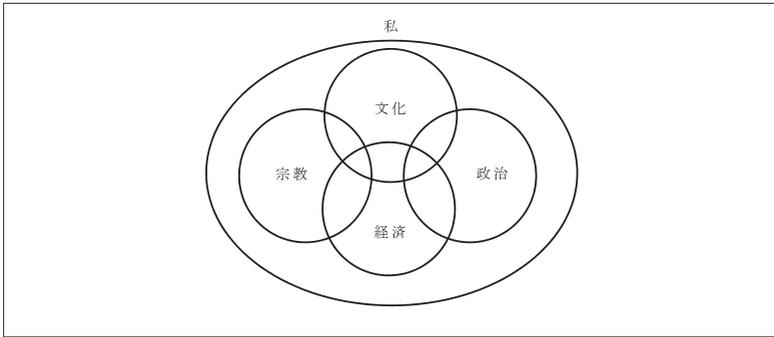


図3 ワタシを作る主な価値観をソシオンに反映させたもの



点は評価を受ける主体を指す。実線はポジティブな評価、点線はネガティブな評価を表す。荷重量は、荷重円の直径で表す（図2）。

ソシオン理論では、人のもつ（自分や相手に対する）感情をポジティブまたはネガティブのどちらかとして表す方法を取っているが、「人は複数の判断材料を心の中に持ち、同時にたくさんの人格でもって相手を理解することが求められる」（小川、2014）とあるように、人は文化・宗教・経済・政治といった世界をつくる主要な物事に関して様々な価値観を持っており、それをもとに、様々な判断を下して生活している。好きまたは嫌いという感情は、そのような価値観を元に、生じると考えるため、人の持つ多面性（plural self）・育った環境などで形成される価値観を考慮し、各自の感情を理解することが重要だと考える（図3）。

小川(2014)によると、人間は、称賛されるように、また、非難されないために頑張り、互いに同感を求めて発言し行動するという。このような動機が人間の行為の根底にあることを考えると、個(ワタシ)を作る、宗教的・文化的・政治的価値観(考え・行動)の荷重量は、個が置かれている(育った)環境によって伸縮があると考えられ、その環境の中で「より称賛される」思想に即した価値観が、個の中を大きく占めるようになると推測される。これらのことを考慮し、実際にブータンに足を運び感じたことを元にソシオン理論を用いてブータンの関係性を表していく。

4-2. ソシオン理論でみるブータンと隣国の関係性

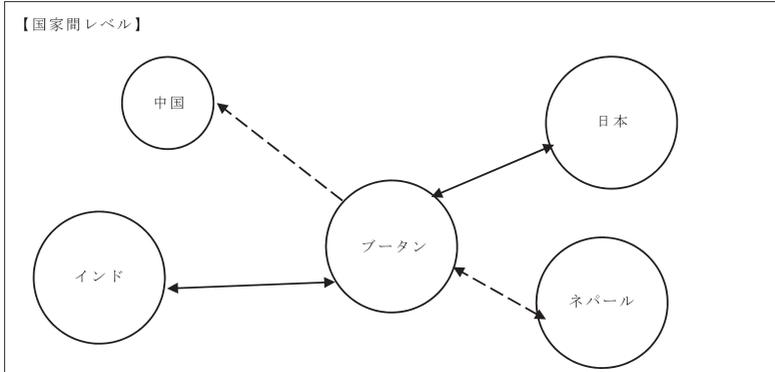
まず初めにブータンと隣国の関係性を見てみる(図4)。インドや中国といった大国に囲まれるブータンにとって、それらの国々との関係を語るにおいて、念頭に置くべきは、チベットの中国併合とインドのシッキム王国吸収であると言う。宗教的観点からも親和性の高かった2つの隣国が、大きな大国の一部となった歴史や、インドとネパールの現状(政治不安や環境破壊など)は、ブータンという国の方向性を定める際に大きな役割を担っているようである。経済的にインドからの援助・輸入に頼っている状況や労働力の移動を考えても、インドへの依存性は高く、またブータンという国を独立国として守っていく上でも、インドとの友好関係は継続されていくであろう¹⁸。

一方、中国との国交関係は依然結ばれておらず、インドとの友好関係が前提にあることを考慮すると、中国に対する態度が軟化するにはまずインドと中国間の関係改善が必要になるだろう。ネパールに関しては、立地条件などが似ていることもあり学ぶべき点もあるようだが、ブータン南部のネパール難民問題を未だ解決できていない以上、友好とは言い切れない¹⁹。

¹⁸ 外務省：ブータン王国基礎データ (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bhutan/data.html>) ブータン・経済省よりデータ参照 (<http://www.mof.gov.bt/publications/reports/bhutan-trade-statistics/>)。

¹⁹ ブータンとネパールが抱えるネパール難民問題に関しては、根本(2012)を参照。

図4 ソシオン理論を活用して現したブータン・日本・インド・中国・ネパールの関係



注：矢印の始点は評価をする主体を、終点は評価を受ける主体を指す。実線はポジティブな評価、点線はネガティブな評価を表す。

注：それぞれの国同士の間隔や距離感などには特に意味を持たせていない。

最後に、日本との関係は、ブータン国内で農業の父と称されるダショー西岡の存在・ブータン王室と日本の皇室の親密さ・日本の援助（技術協力など）を考慮すると、友好関係を築いていると言える²⁰。

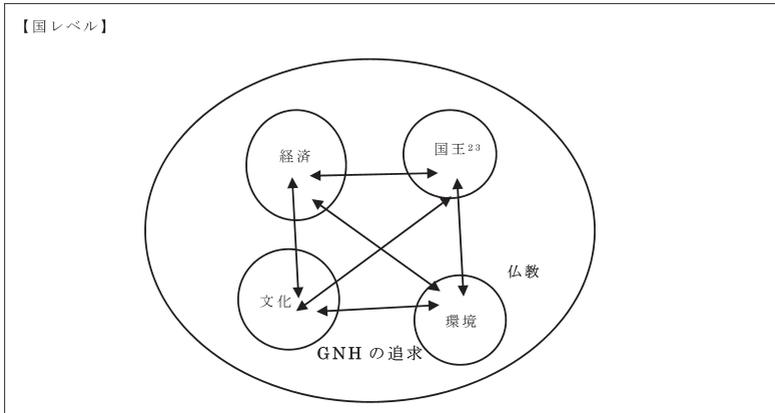
続いて、ブータンという国を司る重要な価値観について図5に表す。ブータンと言う国を現す上で欠かせないのが仏教²¹（チベット仏教）の存在であろう。ブータンの人々は、3毒（怒り・欲望・無知）を克服することをはじめ、仏教の教えが老若男女問わず浸透している²²。その仏教と言う共通の価値観を基礎

²⁰ 第4代国王陛下の来日（1989年・1990年）や第5代国王・王妃両陛下の来日（2011年）をはじめ、日本からも、皇太子陛下（1987年）・秋篠宮殿下ご夫妻（1997年）・真子様（2017年6月）など様々な形で、皇室・王室間の交流がある。外務省：ブータン王国基礎データ（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bhutan/data.html>）より。

²¹ ブータンにおける仏教の重要性はSchumacher（2010）やhttps://en.wikipedia.org/wiki/Buddhist_economicsを参照。

²² 今回の滞在中、ガイドの方にブータンでは喧嘩をすると逮捕されると聞いた話を聞き驚いていたところ、「なぜ怒るのか？なぜ喧嘩をするのか？」と問われ答えに詰まってしまった。それ程、ブータンにおいて「怒り」は無用なものであり、理解できない感情のようである。

図5 ブータン国内において重視されている価値観とその関係性



注：矢印の始点は評価をする主体を、終点は評価を受ける主体を指す。実線はポジティブな評価、点線はネガティブな評価を表す。

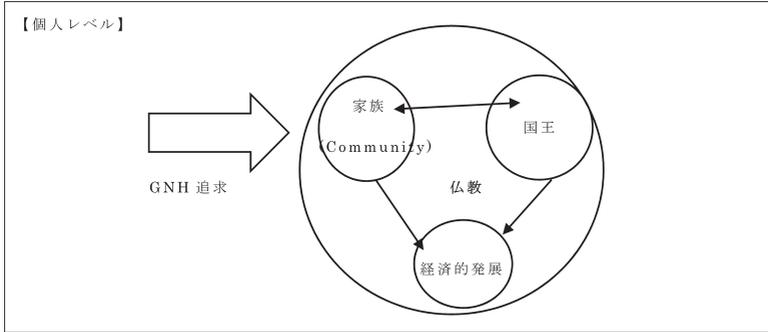
として、GNHの4つの柱（社会経済的発展・環境保護・文化の保護と促進・良き統治）がありGNHという国としての方向性が成り立つと考えられる。図5に示したように、経済・環境・文化・国王、全てが互いにポジティブな関係性を保つことが、ブータンにとっての発展・GNHの追求ではなかろうか。

最後に、個人レベルにおいてブータンの人々を司る重要な価値観を図6に表す。基本的に国レベルで考えた時と同様、ブータンの人々の基礎にあるのは仏教であり、外部からの要因として、国の方向性（GNHの追求）が彼らの価値観に多くの影響を与えていると考えられる²⁴。その中で、ブータンの人々を占める主要な価値観としては、家族（Community）・国王・経済的発展だと解釈する。ブータンの人々にとって家族やCommunityの占める役割は大きく、彼

²³ 本来であれば4つの柱の1つは良い統治ではあるが、ブータンにおける国王の存在感・国民の国王に対する親愛・尊敬の念は、目を見張るものがあるため、ここではあえて良い統治の現れとして国王と記載した。参考文献としては、田中(2012)がある。

²⁴ GNHC事務次官と面会をした際、「教育の重要性」について語られることが多く、ブータンの文化・伝統・言語・価値観を守るために、各家庭のみならず、教育の現場でも幼少期からGNHの視点に重きをおいた教育が行われていることを感じた。

図6 ブータンの人々を司る重要な価値観とその関係性



注：矢印の始点は評価をする主体を、終点は評価を受ける主体を指す。実線はポジティブな評価、点線はネガティブな評価を表す。「経済的發展」に人格はないため、もっぱら評価を受ける主体としている。

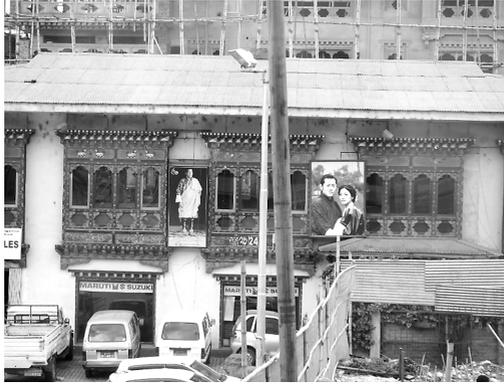
らが祈りを捧げる際には、己の願いではなく、家族や Community の幸せといった、自分自身の幸せ以上の範囲で祈るという。また、ブータンでは、家族や Community など人々の繋がりの中に、自分自身の役割や存在があり、「孤独や居場所がないといった状況とは無縁」だと言う²⁵。こういったことから、自分自身の存在価値を見出すためにも、家族や Community はブータンの人々にとって必要不可欠だと言える。

国王に対する親愛の念は先に述べた通りであり、空港・街中・ホテル・レストランなどいたる所に、国王と王妃の写真が飾られていることから、ブータンの人々の生活に、国王や王室の存在が根強く生きていることを感じる（写真6）。また、2014～2015年にかけての調査において、日本の自国の政府への信頼は若干38%のところ、ブータンでは、95%の国民が政府を信頼していると回答しており議会制民主主義に移行したとは言え、この結果は国民の国王に対する信頼だと解釈できるのではなかろうか²⁶。

第2節で示したように、未だ「経済的に豊か」とは言えない状況下では、経

²⁵ JICA 職員の方の個人的見解による。

写真6 各所に飾られる国王・王妃の写真(首都ティンブプー市内にて)



済的發展²⁷を望む声も多いと推察されるため、経済的發展を主要な価値観の1つとしてここでは捉える。インターネットなどを介して様々な情報が入ってくれば、より多く・より便利なものを望むのは人間として自然であり、ブータンの人々も例外ではない。以前とは異なる価値観を重要視する者も増えてきているようだが、仏教の教えでもある「自分の持っているものに満足する心 (Satisfied with what you have)」や、「一定以上の物を求め過ぎない」といった考え方は根強く、ブータンの人々が今後も、経済的發展だけに囚われることはない²⁸と信じている。

第5節 小括と展望：

ここまで、ブータンの経済状況と国民の幸福度や、GNHと近代化の狭間で

²⁶ United Nations Development Programme, Human Development Report 2016, (http://hdr.undp.org/sites/default/files/2016_human_development_report.pdf) pp.250-252 より。

²⁷ 経済的發展を求める声がある一方、「全てにおいてお金が物を言う」とガイドの方が困惑していたように、Sandel (2012) の言う、お金で買えないものは無い世界への懸念が、ブータンの人々の中には残っている。

²⁸ GNHC 事務次官との面談より。消費主義に走る人々や、より多くを得るために残業をする人々も増えていると言う。

生じている課題とその対応策、またソシオン理論を用いて、ブータンと隣国の関係性や、ブータンの人々・ブータンという国を形作る重要な価値観について、外部者としての考察を重ねてきた。インターネットやテレビなどの普及により（近代化の影響）消費主義の傾向が都市部（とりわけ若者の間）では見受けられるようになってはいるが、ブータン政府はGNHの概念を元に、国としての対応策を練り問題解決すべく取り組んでいる。何年経とうとも、仏教の教えが彼らの生活の根本にあるのは変わらないのであろう。だが、今後10年・20年経ち、世代交代の波が押し寄せても、GNHの4つの柱のバランスは現代のように保たれていくのか、それとも、物質主義による経済発展にのみ取れんしていくのか、今後のブータンとその人々を取り巻く環境を注視していく必要があるだろう。

参考文献

- 青木寛子・石戸光・川嶋香菜（2009）「豊かさの経済を求めて：ブータン王国に思うこと」『千葉大学大学院 人文社会科学研究』20:49-68.
- 石戸光（2016）「幸福についての公共研究—千葉大学公共学会講演会」『公共研究』12（1）:19-33.
- 小川仁志（2014）『アダム・スミス 人間の本質『道徳感情論』に学ぶよりよい生き方』ダイヤモンド社
- 賀戸一郎・田中一彦（2016）「ブータン GNH 指数の解説ならびに GNH 調査結果」『西南学院大学 人間科学論集』11（2）:117-140
- キャロル グラハム（2013）『幸福の経済学 人々を豊かにするものは何か』多田洋介訳、日本経済新聞出版社
- 小杉考司・藤澤隆史・渡邊太・清水裕士・石盛真徳編著（2006）『ソシオン理論入門 心と社会の基礎科学』藤澤等監修、北大路書房
- 白石邦広（2012）「グローバル化に直面するブータンの GNH（国民総幸福量）」『SRID ジャーナル』2:1-12.
- 高野信之（2016）『未来国家ブータン』凸版印刷株式会社
- 橘木俊昭（2013）『「幸せ」の経済学』岩波現代全書
- 田中敏恵（2012）『ブータン王室はなぜこんなに愛されるのか 心の中に龍を育てる王

『国の全て』小学館

暉峻淑子 (1989) 『豊かさとは何か』岩波新書

中尾佐助 (2011) 『秘境ブータン』岩波新書

根本かおる (2012) 『ブータン「幸福な国」の不都合な真実』河出書房新社

藤澤等 (1997) 『ソシオン理論のコア 心と社会のネットワーク』北大路書房

本林靖久・高橋孝郎 (2013) 『ブータンで本当の幸せについて考えてみました。「足るを知る」と経済成長は両立するのだろうか?』阪急コミュニケーションズ

山下修平・高見沢実 (2016) 「ブータンの国民総幸福 (GNH) 政策の理念と計画化に関する研究——理念の歴史的起源と具現化のための Policy Screening Tool の効果について」『都市計画論文集』51 (3) :741-748.

Buddhist economics, [online] (https://en.wikipedia.org/wiki/Buddhist_economics, 2017年6月27日)

E. F. Schumacher (2010), *Small Is Beautiful Economics as if People Mattered*, New York: Harper Perennial.

Jigme Phuntsho (2017), *Fruits of Happiness How Horticulture Enhance Gross National Happiness in Mongor, Bhutan*, Thimphu, Center for Bhutan Studies.

Madeline Drexler (2014), *A Splendid Isolation Lessons on Happiness from the Kingdom of Bhutan*, Madeline Drexler.

Michael J. Sandel (2012), *What Money Can't Buy: The Moral Limits of Markets*, New York: Farrar, Straus and Giroux.

(すぎの まさみ、たしろ ゆき)